

## 【第4回 関西日本ラトビア協会総会開催】

日 時:平成24年12月1日(土) 11時~14時  
場 所:ダイワロイネットホテル四ツ橋

ペーテリス・ヴァイヴァルス大使を迎えて協会の理事会・総会が開催されました。理事会で収支報告が承認され、総会で東郷理事長からその報告が会員の皆様に行われました。また理事長から2013年に開催される5年に一度の「歌の祭典」の紹介や、翌年の2014年にはリガがEU文化首都に選定され、様々なイベントが開催されるので、ぜひリガを訪れてほしいとのお話がありました。

講演会では、会員の鶴田宜江さんから『歌と共に生きる～アルスンガ村に住むスイティの人々～』と題して、ラトビアでのフィールドワークを通じた貴重な体験談を披露していただきました。

懇親会では、ヴァイヴァルス大使を囲み、クラシック演奏などを楽しみながら、留学生の皆さんとも交流するなど、参加者全員が楽しいひと時を過ごし懇親を深めました。



理事会風景 (出席者 20名)



総会風景 (出席者 52名)



東郷武理事長挨拶



ヴァイヴァルス大使挨拶

### 【ご出席者一覧】50音順・敬称略

浅野敏行 芦田雅行 池田裕子 石原美生子 岩崎泰佑 岩崎和子 上野慶三 太田敏正 砂田千秋 西野孝二 大槻恭正 大野たか子  
大橋正孝 岡林昌弘 岡本 健 金井雅孝 木村咲子 木村弘子 木村宗光 小林正明 小原英明 権藤真禎 酒見信義 佐々木實  
正司泰一郎 大東竹義 竹村 肇 田中立子 谷本瑞絵 鶴田宜江 寺岡志郎 東郷 武 東郷久野 富永章之 成瀬康夫 蓮池 寛  
藤本昌男 古田晴彦 古田 睦 松井英夫 風呂本武敏 堀田健二 堀田育子 溝口明子 迎山隆昭 安田 勝 山原一晃 横田けんじ  
吉村義治 吉村セイ子 脇山廣三 脇山緋佐

※ゲスト：ペーテリス・ヴァイヴァルス特命全権大使 神戸市・松田高明国際交流部長 外務省・浅野尚未大阪分室長  
レイニス・ワードリスさん イエヴァ・トレティウカさん ダナ・アンティボヴァさん

### 【関西日本ラトビア協会 会報 第7号 掲載内容】

- |                               |                                   |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 ★関西日本ラトビア協会総会開催             | 6 【寄稿】おいしいラトビア展 溝口明子さん            |
| 2 ★夏至祭をヤーニスの歌でお祝い             | 7 ★さよならリンダ先生 送別旅行と新たなラトビアトークサロン   |
| 3 【寄稿】うららかなリガで 後藤健二さん         | 8 【寄稿】パルディエス(ありがとう)!リンダ先生 岡崎明日香さん |
| 4 【寄稿】美しすぎるラトビア国会議長の来日 池田裕子さん | 9 ★ラトビア関係図書を紹介                    |
| 5 【寄稿】憧れのラトビアの踊りと音楽 溝口明子さん    | 10 ★ラトビアトピックス2012~2013            |
|                               | 11 【寄稿】ラトビア植樹祭 上野慶三さん             |

## 【第4回 関西日本ラトビア協会総会開催】

【ヴァイヴァルス大使ご挨拶】 ヴァイヴァルス大使からは、協会の活動に対する感謝の言葉をいただいた後、経済危機から力強く脱出しつつあるラトビアが、今やヨーロッパの中で最も高い経済成長率を示す国のひとつになったといううれしい報告がありました。また2013年2月にサッカーのラトビア代表チームが来日、神戸で日本代表との試合が行われるので一緒に応援を！とのお話があり、最後にご自身の大使任期がおそらくあと8ヶ月ほどであり、残りの任期も協会の方のご支援をお願いしたい旨のご挨拶がありました。



ヴァイヴァルス大使の挨拶



通訳をお願いしたレイニス・ワードリスさん  
(大阪大学大学院在籍)

### □講演会：講師 鶴田宜江さん 演題『歌と共に生きる～アルスンガ村に住むスイティの人々～』

現在愛知県在住の鶴田さんは忙しい中、総会に参加してくれました。アルスンガ村のマリアおばあちゃんの田舎暮らしぶりやスイティと呼ばれる人々の即興歌「ブルドーン」などについて興味深い話を聴かせてくれました。またラトビアの民族楽器「クワクレ」の紹介もありました。

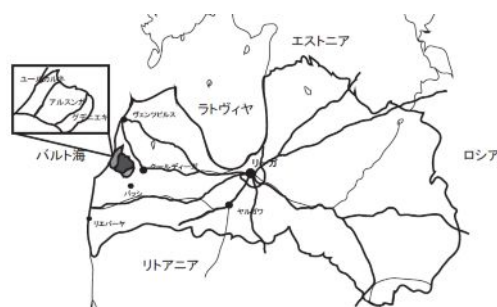
【講師略歴】 2009年～2012年 京都大学・人間環境学研究所・文化人類学専攻にてラトビア研究 2010年6月 夏至祭 アルスンガ初訪問 2010年8月～9月、2011年8月～9月 アルスンガにて合唱団「スイティ婦人たち」の調査 2012年8月 アルスンガ再訪



鶴田宜江さん



「クワクレ」を紹介



アルスンガ村の位置



乾杯 榎藤真禎・常務理事



懇親会風景



轟木さん（ピアノ）中田さん（ヴァイオリン）

懇親会では、東郷久野名誉領事夫人のご紹介で、轟木裕子さん（ピアノ）中田潔子さん（ヴァイオリン）による素晴らしいクラシック演奏を披露いただきました。

演目：アンダルーサ グラナドス作曲（ピアノソロ）  
金髪のジェニー フォスター作曲 ハイフェッツ編曲（ヴァイオリン&ピアノ）  
チャルダッシュ モンティ作曲（ヴァイオリン&ピアノ）

## 【第4回 関西日本ラトビア協会総会開催】

### □ゲストの紹介・スピーチなど

ラトビアからの留学生のレイニス・ウードリスさん、イエヴァ・トレッティウカさんやダナ・アンティポヴァさん達にスピーチをしていただき、正司泰一郎常務理事に中締めのご挨拶をいただきました。



イエヴァ・トレッティウカさん



ダナ・アンティポヴァさん



ダナさんとお母さんも参加（右端）



中締め 正司泰一郎・常務理事

### 【関西日本ラトビア協会 収支報告書】（平成23年4月1日～平成24年3月31日）（単位：円）

		今年度	前年度
前期繰越金		1,222,468	1,791,231
収入の部	年会費等	566,000	227,000
	総会等催事会費	477,155	366,000
	受取利息	237	466
	合計	1,043,392	593,466
支出の部	総会等催事支出	607,091	711,289
	会報印刷代・送料	391,700	377,230
	広告宣伝費	73,710	73,710
	バルザム購入代	84,007	0
	交際費・雑費	18,761	0
合計		1,175,269	1,162,229
次期繰越金		1,090,591	1,222,468

※収支報告書につきましては、監事・橘英三郎氏、寺岡志郎氏により監査を受けて承認いただいております。  
 ※会員数は167名（平成24年11月30日現在）

★関西日本ラトビア協会の有志がラトビアの夏至の日を「ヤーニスの歌」で祝いました★

東郷武在大阪ラトビア共和国名誉領事邸（宝塚市）にて 平成24年6月23日



太陽崇拝の「夏至祭り」が日本の正月のように重要な行事であるラトビア。その夏至を祝おうと普段名誉領事館でラトビアの風習や文化を学んでいる方々が東郷名誉領事のお宅に集いました。庭ではかがり火を燃やし、女性たちは手作りの花と葉っぱの冠で髪を飾り、ラトビア民族衣装で本場の雰囲気 연출しました。



手作りの花の髪飾り



ヤーニスの歌の練習



かがり火を囲んで



夏至の祭りは日が暮れるにつれ徐々に盛り上がりました



ヤーニスの歌を全員で合唱

名誉領事夫人の手料理や黒パンに黒ビール、手作りたこ焼きなどを食べながら、ラトビア語の先生リンダ・ガルワーネさんの指導のもと全員で夏至を祝う「ヤーニスの歌」を歌いました。その歌声はリンダ先生の携帯電話でラトビアのラジオ局に届けられ生放送されたそうです。関係者のご努力によって距離的には遠いラトビアが、たいへん身近に感じられたひとときでした。

## 【寄稿】 うららかなリガで

後藤健二さん（前・在ラトビア日本国大使館書記官）

残雪、時折の降雪と、まだ冷たい風が頬を冷やした4月が終わると、ラトビアはようやく春の訪れを迎えます。5月から6月にかけての最も活力みなぎるラトビア現地の様子をお伝えします。



5月・6月は、長く厳しい冬を越したラトビアの人々にとって待望の季節です。マラソン大会やサイクリング大会、ビール・フェスタや大規模な民芸品市など、毎週末のように開催される参加型の各種イベントが、市民や観光客を飽きさせません。自然と屋外に繰り出し、太陽を満喫する人々の表情は、冬場とは違う、どこかはつらつとした晴れやかな表情になります。

町の情景も同様です。4月には開いていなかった通りの木々の新芽が、5月初めのある日を境に一気に芽吹き、町中が新緑と花で彩られます。若々しい葉っぱを通して、柔らかな太陽光線が降り注ぎ、何とも気持ち安らぐ空気が町中を覆います。多くのレストランが競うように軒先に野外席を設けるのも5月。その姿は、風情こそ違え、京都の夏の風物詩である納涼河床のような印象です。

日毎に日照時間が長くなり、夏至を迎える6月末には23時頃まで夕方のような明るさとなります。市内各所で明るい晩酌を遅くまで楽しむ人々の姿が見られるのもこの時期ならではの姿です。

こうした季節への喜びは、夏至祭に頂点を迎えます。夏至祭は、太陽の神「Janis」を祝う習わしに端を発すると言われており、今でも多くのラトビア人は郊外に繰り出し、親戚や友人たちとともに、野外で焚いたたき火の周りで伝統的な踊りや歌に興じ、夜を明かします。最近では、市内に残った人も夏至祭を楽しめるようイベントが催されています。うららかな気候と同様、ラトビアの経済が明るく晴れやかなことが今年の特徴の一つかもしれません。

2008年のリーマンショック以降、非常に深刻な不況に陥ったラトビアは、その後数年間、増税、人員や給与削減など、厳しい状況に直面しましたが、スピーディーな緊縮財政政策や構造改革が次第に功を奏して、昨年からの状況が好転したラトビア経済は、現在では欧州内で最も高い成長率を遂げる回復ぶりを見せ、他の欧州諸国の模範と評されています。



日本・ラトビア関係に目を向けると、2011年、新たな外交関係開設20周年も迎え、文化・人物交流、政治対話、経済交流など着実に発展してきています。将来の二国間関係も明るく、冬知らずの温かで晴れやかな関係が待っているに違いありません。（了）

## 【寄稿】 美し過ぎるラトビア国会議長の来日

池田裕子さん（関西学院・関西日本ラトビア協会理事）

2012年3月、参議院議長招待によりソルヴィタ・アーボルティニャ国会議長ご一行（警護官を含め8名）が来日されました。4日朝、成田空港に到着されてから、東京と仙台でハードなスケジュールをこなされた後、帰国前の一日（8日）を京都で過ごされました。その夜、京都迎賓館で夕食会が催され、関西のラトビア関係者が招かれました。関西日本ラトビア協会から天江喜七郎会長、東郷武名誉領事、ラトビア語教室（ラトビアトークサロン）のリンダ・ガルワーネ先生（大阪大学大学院博士課程）と私の4名、それに井上琢智関西学院大学学長の計5名が出席しました。

はじめに、「藤の間」の見事な壁画（西陣織）の前で記念撮影が行われました。入口に日本側が一列に並んでご一行を迎え、一人一人と挨拶を交わしました。「ラブ・ヴァカール（今晚は）」「マニ・サウツ・イケダ（池田と申します）」「プリエツアイヨオアス・イエバズィーティエス（どうぞよろしく）」「ロワティ・パティーカミ（どうぞよろしく）」。リンダ先生から教わったラトビア語が役に立ちました。

その時の写真（参議院国際部提供）は、食事前の空腹感のせいでしょうか、皆さん緊張の面持ちです。天江さんと私だけにこやかに写っていますが、これは2人で話が弾んでいたからです。大使を歴任された天江さんは場慣れされている上、周囲の緊張をさり気なく解きほぐしてくださいます。



### 【ご出席者一覧】 順不同・敬称略

前列左より 天江喜七郎関西日本ラトビア協会会長、池田裕子（筆者）、渋谷實内閣府迎賓館長、エドワルズ・スミルテーンズ国会議員（対日友好議員連盟会長）、ペーテリス・ヴァイヴァルス駐日大使、ソルヴィタ・アーボルティニャ国会議長、アンドレイス・クレメンティエヴス国会副議長、東郷武在大阪名誉領事、井上琢智関西学院大学学長、リンダ・ガルワーネさん

後列左より ダナ・ルダーカ駐日大使館二等書記官、グンダ・レイレ国会議長室長、リーガ・アマタ国会儀典部上席顧問、ウジス・パンベ国会議長外交顧問、オレグス・オルロフス外務省経済連携促進課二等書記官、井高育央参議院国際部長

会食は午後7時に始まりました。ラトビア側10名、日本側11名が掘り炬燵式の座卓に向かい合って座りました。ホストは渋谷實内閣府迎賓館長、私の両隣は天江さんと井高育央参議院国際部長でした。

日本側の挨拶（渋谷さんと天江さん）は英語で行われました。国会議長はラトビア語で挨拶されたので、通訳として同行されたオレグス・オルロフスさんが日本語に訳されました。お料理は南禅寺瓢亭でした。

食事が進むに連れ、雰囲気は次第に和んでいきましたが、祇園の舞妓さんと芸妓さんによる踊りが始まると、一気にムードが変わりました。ペーテリス・ヴァイヴァルス大使は、自らカメラを手に前に進み出られ、おずおず近づいた私にも場所を勧めてくださいました。



踊りが始まり、撮影に夢中のヴァイヴァルス大使



国会副議長、国会議長、ヴァイヴァルス大使

踊りを披露された後、舞妓さんと芸妓さんが順番に席を回って、お相手くださいました。ラトビア側からの質問攻めにも、にっこりたおやかに応対される様子に見とれてしまいました。

「通訳に忙しくて、せっかくのご馳走を全部食べることができませんでした。でも、私自身が知りたいことばかりだったので、通訳が苦になりませんでした」とリンダさんはおっしゃいました。



オレグスさんとグンダさんはシャンパンが大好き？



美しいリンダさんに照れる井上学長



美し過ぎるアーボルティニャ国会議長



舞妓さんが私の席に来られた時、お座敷に上がった時からきれいな女性がいてはるとずっと気になっていました…というようなことをはんなりとした京都弁で言われ、舞い上がりました。「もったいのうございます。こんなに美しい舞妓さんからそのように言っただけのなんて！」と恐縮していると、斜め向いの席のオレグスさんがすかさず声をかけてくださいました。「私も池田さんは大変美しいと思います」。「嘘でも嬉しい」とはこのことです。日本で苦労されたオレグスさんは、何と立派な外交官に成長されたのでしょうか？！ 私が撮影した写真から少しでも雰囲気をおわかりいただけるのでしょうか？



ご機嫌の天江さん



男同士、話が弾んでます

会食が終わりに近づくと、アーボルティニヤ国会議長は席を立たれ、通訳のオレグスさんを伴って日本側出席者の席を回られました。正座して一人一人に相応しい声をかけ、プレゼントをくださったのです。私がいただいたのはラトビア国会のペンでした。「このペンを使って、これからもオゾリンやラトビアのことを紹介してください」とおっしゃいました。日本側出席者一人一人のことを事前に調べ、それぞれにピッタリのプレゼントと言葉を用意されるという細やかな心配りに、感謝感激のひとつコマでした。



リンダさんと私は国会のペンをいただきました。

最後に、井高さんのお声かけにより、金屏風の前でもう一度記念撮影をしました。その時の写真はすっかり打ち解けた雰囲気にも包まれています。国会議長の美しいお心遣いに参議院と迎賓館の行き届いたおもてなしが相乗効果をもたらし、参加者の心が通い合ったように感じられました。「本当に和やかで素晴らしい食事会でしたね」。後日、天江さんもそう感想を洩らされました。

楽しかったひと時が終わり、リンダさん、ダナさん、私の3人が並んで会場をあとにすると、ヴァイヴァルス大使に声をかけられました。「女性は皆、赤がお似合いですね」。私たちは顔を見合わせてにっこりしました（リンダさんは赤いショール、ダナさんは赤いジャケット、私は赤いワンピースを身に付けていました）。事前に相談したわけではありませんが、私たちの頭に国旗の「ラトビアン・レッド」が浮んでいたことは間違いありません。

最後の挨拶はもちろんラトビア語で「ウズ・レゼシャノアス（さようなら）」。そう声をおかけすると、美し過ぎる国会議長は上品な微笑みと共に「ウズ・レゼシャノアス」を私に返してくださいました。

（了）



## 【寄稿】憧れのラトビアの踊りと音楽

溝口 明子さん（関西日本ラトビア協会会員）

ラトビア関係者（？）の皆様スケジュール帳にしっかり刻まれているであろう「歌と踊りの祭典」がいよいよ来年（2013年）に迫っています。もちろん私も観に行く気満々で今からワクワクしています。



美しい民族衣装を纏って踊るラトビアのフォークダンスを初めて見たのは3年前。心の底から楽しんでいっているという事が観ているだけで伝わってきました。また、ラトビアの歴史がそうさせるのでしょうか、どのラトビア人もとても誇らしげな表情でその姿にもとても感銘を受けました。昨年の夏至祭では初めて私も踊りの輪に加えてもらい、忘れられない一日となりました。

ラトビアの民謡はシンプルなのに美しい旋律で一度聴くと耳に残り、ついつい口ずさんしまいます。ラトビアトークサロンではリンダ先生から歌詞を幾つも教えていただきましたが、時に愛らしくて比喻に満ちた内容（私には解釈が難解ですが）でこんな民謡が無数にあるなんて驚嘆の一言に尽きます。

昨年の夏至祭の時のことですが、普段はおしゃれでモダンな皆さんが、どんな音楽が流れても大抵歌えて踊れることに驚いてしまい「歌と踊りの民」と呼ばれる所以を垣間見た気がしています。



そしてラトビアの民族楽器と言えばクワクレ。初めて聴いた時はその琴のようなハープのような音色に、何て切なくて美しい音なんだろう！と感じました。現地でも教えてもらった話によると、元々クワクレは誰かが亡くなった際に松等から切り出して製作し、その音色を静かに響かせることで故人と対話するという目的の楽器だったそうです。ちなみに、クワクレを日本語にすると「木霊ーコダマ」になるそうです。この説明を聞いた時は身震いがしました。

さてそんなラトビアの踊りや音楽に憧れを抱いている私はラトビア製品の買付の為に年に2、3回ラトビアを訪問しているのですが、前回4月の訪問では期せずしてぽっかりと予定が空いたおかげで貴重な体験が出来ました。月一回開催されているというフォークダンスの集いに連れて行ってもらえたのです。この会はとても自然な雰囲気が集まりで、誰かが楽器を奏で始めると各々ペアになって踊り始め、楽しそうに、分からない部分は皆で教えあいながら時間が過ぎていきました。数曲でしたが私も参加させてもらい本当に楽しかったです。ただ、昨年の夏至祭で踊った時もそうでしたが、見た目の楽しげな様子とは裏腹にかなりの体力が必要でゼーハーと呼吸は乱れ、ヨロヨロの汗だくになってしまいました。



更にはイヴェタさんという有名なクワクレ奏者の誕生会に出席する機会をいただき、大型版クワクレの団体演奏を聴くことが出来ました。元々はその意義から小型の楽器だったクワクレですが、エンターテイメント目的に大型化されたものも一般的になっているそうです。音色ももちろんですが凛とした奏者の姿が美しかったので、軽い気持ちでメンバーの一人に「私もいつか弾いてみたい。」と話しかけたところ、「スタートは小型のクワクレから。8年かかってようやく大型のクワクレを弾けるようになった。」という答えが返ってきたのでクラクラと目眩がしました。

私の密かな野望・・・来年の「歌と踊りの祭典」を観に行くことはもちろんですが、フォークダンスと大型のクワクレをマスターすること！！なのですが、体力と忍耐力をつけるところから始めないといけないようです。（了）

【寄稿】 おいしいラトビア展 Garšīgā Latvija!

溝口 明子さん（関西日本ラトビア協会会員）

近所のカフェをお借りして、一般のお客様を対象にしたラトビア料理のランチ会を開催しました。料理長はリンダ・ガルワーネさん、ホール担当はダナ・アンティポヴァさんという強力な布陣で臨みました。



前菜の Šprotes（ニシン）、Burkānu salāti ar valriekstiem（クルミ入り人参サラダ）、そして大使館に提供していただいた Siers（チーズ）盛り合わせ。人参サラダは日本で手に入る食材で作れると知って「試してみたい！」と大勢の方が仰っていました。

【もりだくさんの前菜】



【料理長のリンダさん】



【Skābeņu zupa（ギシギシのスープ）】



【ホール担当で活躍のダナさん】

リンダさんには何ヶ月も前からメニューを考えていただき、当日は朝早くからコックとして奮闘してもらい、一段落してからはホールにも・・・こき使ってしまいました。

Skābeņu zupa（ギシギシのスープ）。お客様にはこれが一番“異国度”が高かったようです。ダナさんには受付からお願いし、お客様とたっぷりお話していただきました。

メイン料理の Kartupeļu pankūkas（じゃがいものパンケーキ）はサーモンとサワークリームを添えました。



【メイン料理のじゃがいものパンケーキ】



【デザートは不思議な食感】

バルザムも大使館から提供していただき少しずつ試飲していただきました。度数の高さに皆さん驚いていましたが概ね好評でした。デザートには Peldošās salas（浮かんでいる島）。美味しくて不思議な食感に満足していただきました。

グダグダな進行になったりしましたが、温かいお客様とリンダ先生とダナさん、そして会場をお借りしたカフェの方々のおかげで何とかイベントを終えることが出来、お客様には喜んでお帰りいただけたように感じました。これをきっかけに少しでもラトビアの事を身近に感じていただけたらなあと思っています。（了）

★★さよならリンダ先生。送別旅行と新たなラトビアトークサロン★★



ラトビア語教室（ラトビアトークサロン）は、2009年6月に東郷名誉領事、日比富美子さん（故人）、河合令子さんの発案によって在大阪ラトビア共和国名誉領事館にてスタートしました。

大阪大学大学院の留学生リンダ・ガルワーネさんを先生に迎え、以来3年間に70回を超える授業が行われました。勉強の後は先生を囲んでラトビアの文化や風土など、また音楽などを語り合って楽しいひと時を過ごしてきました。そのリンダ先生が米国・スタンフォード大学に留学されることが決まり、ラトビア語教室はひとつの節目を迎えることになりました。



リンダ先生の最後のレッスン風景



新生ラトビアトークサロン



レイニス先生とイエヴァ先生

平成24年9月3日のリンダ先生の最後の授業では、全員がラトビア語で自己紹介としてリンダ先生へ感謝の言葉を述べ、その様子をビデオに収めました。今後は新たに、リンダ先生の後輩にあたる二人のラトビア人留学生を招いて、第2期「ラトビアトークサロン」が始まっています。ぜひお気軽にご参加ください。

～リンダ先生送別旅行～

ラトビア語を教えていただいた有志15名で、リンダ先生のアメリカでのご活躍とまたいつか日本に戻って来られることを祈念して、平成24年9月8日（土）～9日（日）に送別の懇親旅行を行いました。



「淡路人形座」で人形浄瑠璃を観劇



南淡路ロイヤルホテル

参加者は各自、自家用車に分乗して淡路島のサービスエリアに集合、そろって昼食をとった後、宿泊先の南淡路ロイヤルホテル（大和ハウス）に向かいました。一日目は、「淡路人形座」で人形浄瑠璃を観劇後、海辺の足湯でほっこり。続いて名物「鳴門の渦潮」見物の観潮船にて瀬戸内海を優雅にクルーズしました。あいにく満潮でなかったため大きな渦は見られませんでした。天気は素晴らしく、雄大な瀬戸内の自然を満喫できました。

## ～リンダ先生送別旅行～

送別懇親会は、宿泊先の南淡路ロイヤルホテル（大和ハウス）にて和風宴会。美味しい料理をいただきながらリンダ先生を囲んで和気藹々と楽しいひと時を過ごしました。



淡路人形座にて「淡路人形浄瑠璃」

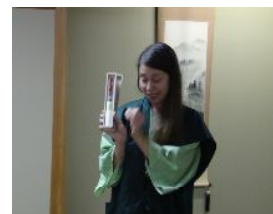
足湯でほっこり



観潮船にてうずしお見物



鶴田さんはクラクレの演奏を披露



記念のおしをプレゼント

リンダさんからはかわいいスプーンが皆さんへ

続いて、竹村さんはじめ全員にカラオケではなむけの歌を披露していただきました。そして「優等生」の池田さんからリンダ先生に有志からの記念品のおしを贈呈しました。リンダ先生は、ホテルや食事もさることながら見皆さんの温かい気持ちに大変感激され、お礼の挨拶が涙模様になっていました。皆さんとの再会を期して、最後に全員で「マーラが与えた人生」も合唱してお開きになりました。（了）

## 【寄稿】 パルディエス（ありがとう）！！リンダ先生

### 岡崎明日香さん（ラトビアトークサロンに参加）

ラトビアという国に興味を持ち、細々と本やインターネットなどで情報収集をするようになったものの、日本でのこの国の情報の乏しさといったら…。でも、私のラトビア熱は日に日に増していくばかりです。

2011年、関西学院大学でラトビア大使の講演会がありました。一般参加歓迎との事で、喜び勇んで聴講に向かいました。講演が始まって大使が「ラブディエン（ラトビア語でこんにちは）」と挨拶をされました。文字でしか知らなかった、生まれて初めて生で聞いたラトビア語が今この鼓膜を揺らした…と初っ端から感極まって涙ぐんでしまいました。その後も大使の口から語られるラトビアの歴史や文化に興奮しきりで、その日は大変充実した一日となりました。家路についてからも大使の「ラブディエン」が何度も心に甦ります。想像していたよりずっと優雅な発音、歌の国と呼ばれるラトビアの言葉にぴったりです。ああ、あの素敵な言葉を私も使えたら…



送別旅行、リンダ先生と足湯で



観潮船にて

転機が訪れたのは2012年の初めの事でした。ラトビア雑貨を取り扱っている大好きな神戸の雑貨屋・SUBARUの溝口明子さんが、ラトビア語教室の存在を教えて下さったのです。どきどきしながら名誉領事館のある大阪・大和ハウス本社ビルへ向かった私を出迎えてくれたのはリンダ先生の「ラブディエン」でした。

教室でラトビア語を学んでおられる方々にも暖かく迎え入れて頂き、どきどきはうきうきに変わりました。以来、月に2度の教室にどんなに心躍らせた事かありません！慣れない異国の言葉に舌が攣りそうになりながら、でもその言葉がすりと口に出るようになった時の喜びは筆舌に尽くしがたいものがあります。また教室では言葉の勉強だけでなく、日本でも「百万本のバラ」として知られる歌の原曲、「マーラが与えた人生」を歌ったり、ラトビアの神話や風習について教えて頂いたり、様々なラトビアを満喫させて頂きました。



東郷名誉領事邸の夏至祭

6月には名誉領事ご夫妻のお宅にお邪魔して夏至祭に参加しました。ラトビアの習慣に倣い、私も花冠を自作しましたが、大きく作りすぎて首飾りになってしまったのをリンダ先生は「それでは動物用ですよ」と笑って教えてくれました。その後も歌あり、ご馳走ありのとても楽しい一日でした。

そんなリンダ先生ですが、アメリカへ渡られるということで、とても寂しく思っています。たった半年でしたが素晴らしい思い出をたくさん頂いて感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。アメリカへ行っても先生が元気に頑張れますよう、そしてたまには日本にも帰ってきてくれますようにと願い、締めくくりとさせていただきます。（了）

## ★ラトビア関係図書のご紹介★

以前、関西日本ラトビア協会の総会で講演をしていただいた翻訳家・黒沢歩さん訳のラトビアの小説が収められた短編集が出版されました。またラトビアの隣国リトアニア駐在の外交官・杉原千畝氏により救われた方々の「命」をつないだ日本人たちの話を紹介した新書をご紹介します。

### □21 世紀東欧 SF・ファンタスチカ傑作集 時間はだれも待ってくれない



ポーランド、旧東ドイツ、ハンガリーなど東欧 10 か国の現代作家による 12 の作品を収めた短編集で、黒沢歩さん訳のラトビア作家・ヤーニス・エインフェルズ氏の作品「アスコルディーネの愛—ダウガワ河幻想—」が収められています。この短編は、ラトビア語から直接日本語に訳された初の小説で、ラトビアの人々にとっての「母なる河」を舞台に幻想的で不思議な物語が繰り広げられます。作者は 1967 年リガ生まれで小説や映画の脚本を発表しています。編者によれば、黒沢さんとの出会いはラトビア大使館のオレグス・オルロフス書記官(当時)を通じてだそうです。身近に知る方々の手によって生み出された作品だと知り非常に親近感がわきました。

出版社：東京創元社 定価：2,625 円 編者：高野史緒

### □命のビザ、遙かなる旅路 杉原千畝を陰で支えた日本人たち



第二次世界大戦中、ナチスの迫害を逃れ多くのユダヤ人がポーランドからラトビアの隣国リトアニアに逃げ込みました。当時リトアニアには、後に「日本のシンドラ」と呼ばれる外交官・杉原千畝氏があり、彼らを日本経由で脱出できるよう査証を発給しました。そして「杉原ビザ」を手にして来日した多くのユダヤ人たちに対して救いの手を差し伸べたのは、福井県敦賀や神戸の人々、JTB や日本郵船の職員さん方でした。本書では、歴史に名前を残さず多くの命を救うことに尽力した名も無き善き人々の活躍が綴られており、読む人の心を明るくしてくれます。

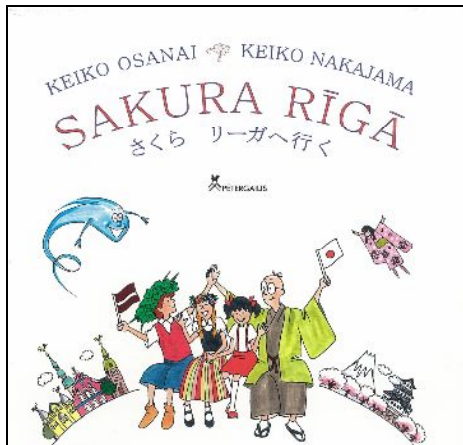
出版社：交通新聞社新書 定価 800 円 著者：北出明氏 (元国際観光振興機構コンベンション誘致部長。ジュネーブ、ダラス、ソウルの各在外事務所に勤務)

また前・駐ラトビア日本国大使夫人の長内恵子さんが素敵な絵本を出版されましたので、今年大和ハウス工業に入社し、当協会も手伝ってもらおうダナ・アンティポヴァさんに紹介してもらいます。



ダナ・アンティポヴァさん

### □さくら リーガへ行く



あの遠いラトビアはどこにあるのでしょうか？  
ラトビアの首都リーガにはどんな楽しいことが待っているのでしょうか？

7歳のさくらちゃんはおじいさんと紙人形の花子と一緒にラトビアを旅して、その美しさや魅力を教えてください。リーガに着いたとたん、花子は風に飛ばされてしまいます。そして、さくらちゃん達はお互いを探し回っているうちに、風や猫、犬、金属の鶏達に出会います。「リーゴ祭の民」と一緒に遊んだり、ラトビアのパンやキャラワイチーズを味わったりして、日本とラトビアの友情を深めます。この素晴らしい絵本は、2ヶ国語で書かれており、日本の子供でも、ラトビアの子供でも、この本を通じて、お互いの国の文化を楽しみながら学ぶことができます。あなたもさくらちゃん達と一緒にあの遠いラトビアの国を旅してみませんか。【紹介者 アンティポヴァ・ダナ】

作：長内恵子（前・駐ラトビア日本大使夫人）イラスト：中山けいこ

## ラトビア・トピックス 2012～2013

### 【2012ラトビアの動き】

ラトビア投資開発公社の日本コーディネータの長塚徹さん（当協会会員、在ラトビア・リガ市）より2012年のラトビア情勢についてレポートされております。【以下抜粋、詳細はラトビア投資開発公社のHPをご参照ください】

#### □経済の現状と今後の見通し

ラトビア経済は、その後も順調に拡大しています。第三期のGDP成長率は前年同期比5.3%とEU諸国中最高の成長率を記録しました。年間の成長率は5%の見込みです。10月の失業者数は10.6万人、失業率10.7%と前年同期より1.9%減少しました。10月末の消費者物価は前年比1.6%と世界的な食料価格の高騰にも拘わらず安定しています。年間では2.6%と予測されています。第二期の輸出は前年同期比3.9%増加、輸入は4.9%増加、同期末の経常収支戻は165百万ラツツ（1ラツツは約170円）、GDPの4.3%に相当する赤字になりました。ラトビアの経常収支はほぼ恒常的に若干赤字ですが、資本収支の黒字で均衡しています。

#### □2014年ユーロ導入

ラトビアは、予定通り、2014年1月1日よりユーロを導入する予定です。ラトビア議会は、12月13日、ユーロ導入のための諸準備作業、具体的措置を規定する法律を可決、第一読会を終了しました。すなわち、ラツツよりユーロに交換出来る期間は導入に先立つ3ヶ月前より導入後6ヶ月間とする。両通貨を並列使用する期間は導入後2週間、この期間中ATMではユーロしか引き出せない、お釣りはユーロでわたす等です。

#### □ラトビア産業視察ミッション2012の実施

9月20日、21日両日、JETROの共催、支援を得て、ラトビア産業の視察事業を実施しました。日本、西欧、ポーランド、ロシアより合計17名の日本企業代表が参加し、セミナーを開催、リガ港や企業を訪問した他、ドゥブロウスキス首相を表敬訪問しました。



セミナーの様子 バヴルツ・ラトビア経済相



リガ自由港視察



ドゥブロウスキス首相とミッション一行との面談

#### □在ラトビア日本国大使・多賀敏行氏の着任



ラトビア独立記念パーティにて 多賀大使（中央右）と協会有志の皆様

11月、長内敬大使が離任され、多賀敏行氏が特命全権大使として着任されました。多賀大使は、在スウェーデン大使館公使や在バンクーバー大使館総領事などを歴任され、2009年に着任されたラトビアの前任地チェニジアでは特命全権大使としてジャスミン革命の渦中をご経験されています。また外交官としてのご経験を活かした比較文化論や英語教育に関する著作を数多く執筆されておられます。多賀大使は2012年11月にラトビア大使館にて開催された独立記念のレセプションにも出席されました。

【上野慶三常務理事に関西学院から感謝の盾が贈呈されました 2012 年年 3 月】



井上琢智学長（左）と上野さん



2011年10月に行われた記念樹苗木贈呈式



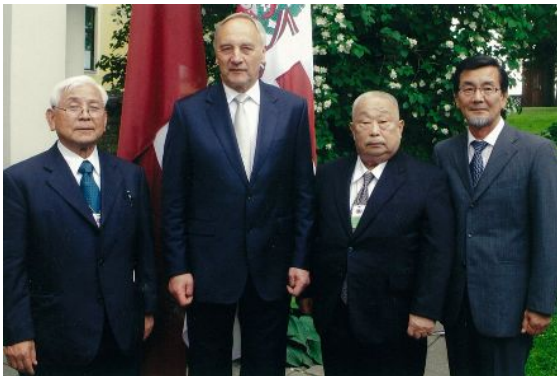
2013年2月苗木定植の様子

去る2011年10月、関西学院にて「日本・ラトビア国交樹立90年・国交回復20年記念樹苗木贈呈式」が執り行われましたが、このイベントの実現に貢献された当協会常務理事・上野慶三さん（リガ・ウッド・ジャパン代表）に2012年3月、関西学院大学の井上琢智学長より「感謝の盾」が贈呈されました。上野さんはラトビア政府から特別の許可を得てラトビアの国樹であるオークの苗木を輸入されました。

この記念樹は、その後一旦別の場所で育成されていましたが、2013年2月に無事関西学院の上ヶ原キャンパスに定植されました。定植式にはヴァイヴァルス大使が来校され、駐ラトビア日本国大使に着任された多賀敏行氏、関西学院のグローバル院長、井上学長らの手によって取り行われました。

関西学院とラトビアとの関係は、約90年前に関学の教師だったイアン・オゾリンさんに遡ります。関学の学院史編纂担当の池田裕子さんらのご尽力で教師オゾリンさんのことがヴァイヴァルス大使はじめラトビアの皆さんにも知られるようになり、今日の関係に引き継がれております。この苗木がラトビアと日本の架け橋として大きく育つことをお祈りいたします。

【第6回ラトビア共和国名誉領事会合で東郷名誉領事がベルズィンシュ大統領と面談 2012年7月】



2012年7月5日から2日間の日程で、ラトビアのリガにて世界50か国96名の名誉領事が一堂に会して、2年に一度の名誉領事会合が盛大に催されました。

日本からは東郷武・在大阪名誉領事はじめ、沖縄の翁長良光名誉領事、旭川の井下佳和名誉領事の3名が参加されました。

アンドリス・ベルズィンシュ大統領を囲んで東郷名誉領事（左端）翁長名誉領事（右から二人目）井下名誉領事（右端）



ドンブロウスキス首相、リンカピクス外務大臣らを囲んで



**【ラトビア共和国投資開発公社主催ラトビア・ウィークが開催 2012年8月】**



ヴァイヴァルス大使、大使館ダナさん（左から二人目）ラトビア投資開発公社アリナさん（右から三人目）らと

南青山「Athalie」でラトビア・ウィークのオープニング・レセプションが開かれ、ラトビアのデザインやライフスタイルやラトビアの文化を紹介する様々な品が展示されました。

当日は日本ラトビア音楽協会合唱団「ガイスマ」の有志が演奏を披露し、ラトビア・ウィークは9月13日まで同会場で様々なイベントが開催されました。



日本ラトビア音楽協会 加藤晴夫専務理事（右端）



日本ラトビア音楽協会合唱団「ガイスマ」による合唱

**【第94回 ラトビア共和国独立記念パーティが開催されました 2012年11月】**

ラトビア大使館に多くの関係者が集い、ヴァイヴァルス大使はじめ大使館の皆さんとともに独立記念日をお祝いしました。



東郷久野名誉領事夫人を囲んで



中曽根弘文日本ラトビア友好議員連盟会長（右端）

**【東郷名誉領事のお宅にてラトビア協会有志による新年会が開催されました 2013年1月】**

ラトビアトークサロンの新しい先生であるイエヴァさん、レイニスさんに参加していただき、この日は勉強なしで、カルタ（百人一首）や花札（レイニスさんは出来るようです）、囲碁など、お正月にふさわしい日本伝統の遊びで楽しみました。竹村さんのウクレレ演奏披露もあり、にぎやかで楽しい新年会となりました。



太田敏正理事 砂田千秋さん



竹村肇理事はウクレレを披露



【サッカー、ラトビア代表VS日本代表戦の応援に行きました 2013年2月】



国歌を熱唱されるウナ・ヴォルコヴァさん



ラトビアサイドの応援席の皆さん

ホームスタジアム神戸で開催されたサッカー日本代表 VS ラトビア代表の試合を会員有志で応援観戦しました。

開会式では北海道の東川町役場に国際交流員として在籍のウナ・ヴォルコヴァさんがラトビア国歌を斉唱されました。

試合結果は残念でしたが、昇信化成の佐々木実社長より寄贈された手旗国旗を手に、大いに盛り上がりました。



佐々木社長より寄贈いただいた手旗国旗

【ドンブロウスキス首相が来日されました 2013年4月】



ドンブロウスキス首相を囲んで

ラトビア共和国のドンブロウスキス首相が日本を訪問されました。首相は安倍総理や政府要人との面談等を精力的にこなされ、4月10日にはジェトロ、ラトビア投資開発公社、ラトビア共和国大使館の共催による投資環境やビジネス情報を伝えるフェアラムにも出席されました。

ドンブロウスキス首相は、ラトビアが経済が危機的状況にあった2009年3月に首相に就任され、強いリーダーシップで徹底した緊縮財政政策を推進、見事ラトビア経済を安定成長路線に回復させました。

【日本舞踊「菊の会」の発表会（京都・八瀬）を東郷名誉領事夫人らが鑑賞しました 2013年4月】



東郷名誉領事夫人（前列左から二人目）と竹村さん（後列左から二人目）のご案内

「日本舞踏集団 菊の会」の京都公演を、長年この会の支援をされている当協会理事の竹村肇さんの案内で、東郷久野名誉領事夫人とイエヴァさん、レイニスさん、ダナさんが鑑賞しました。



公演終了後出演者の皆さんと

**【4月のラトビアトークサロンは・・・ 2013年4月】**



溝口さん・ダナさんを囲んで全員で記念写真

ゲスト3名は Juozas Statkevicius さん（最前列左） Nella Ushakova さん（2列目中央） Zanna Dubska さん（2列目右から三人目）

4月のラトビアトークサロンは、5月からラトビアに長期滞在される溝口明子さんと、4月に大和ハウスに入社されたダナ・アンティポヴァさんの歓送迎会を兼ねた懇親会を開催しました。お二人のますますのご健勝とご活躍を全員でお祈りしました。この日は観光で来日中のラトビア人の女性お二人とリトアニア人男性が飛び入りでゲスト参加され、一気に異国ムードが盛り上がり、にぎやかで楽しいひと時となりました。

**【寄稿】ラトビア植樹祭 2013年4月**

常務理事 上野慶三さん



Andris BERZINS 大統領

今年の植樹祭は4月26日で、毎年4月末から5月初旬に開催されます。主催はラトビヤス・フィニエリス（LF）社で、国が協賛するイベントです。LF社は1873年創立の世界最古で、バルト最大の合板会社です。国の財政が厳しい中、このように企業や一般市民や観光客の寄付で催しが行われています。今年は例年よりも寒く、日中は気温が15℃ぐらいになっても、夜になると5℃以下になる日がよくあります。当日はアラレ気味の雨が降る寒い中、たくさんの老若男女が参加、BERZINS 大統領や STRAJUMA 農林大臣も臨席されました。ちなみに BERZINS はシラカバという意味で国民に親しまれている名前です。または STRAJUMA 農林大臣は閣僚の中で最も国民に愛されている大臣です。

金・銀・オイルなどの資源のないラトビアでは「シラカバはゴールド」と言われ、1606年から国策で植林が始まり、毎年この時期に国内各地でたくさんの植樹祭が催されます。今年植えた苗が70年後に直径25cmほどに成長し、木製品として使われるようになります。自分たちの祖父母や父母が植えた木を感謝の気持ちで大切に使われているのです。そして毎年、植林によって国内には500万㎡の森林面積が増えています。環境破壊や地球温暖化が叫ばれている中、世界で最も古くから永続的森林経営を確立した国としてラトビアが注目されています。



老若男女が参加



ラトビア国旗の横には今年も日の丸が



Latmidota STRAJUMA 農林大臣



LF社のBikis会長(左)とMonika副会長



上野さん作「富士山」の絵(後方)が好評



シラカバのジュース

(写真上・右) 雪解けから新緑までの1週間位しか採取出来ないシラカバジュースは、この時期のラトビア国民の貴重な健康飲料です。

(写真左) ラトビア大使館に行き多賀大使と会食しました。多賀大使の娘さんは宝塚歌劇の有名な男役の身長178cmの「十輝いりす」さんです。ラトビアに関わる者としてぜひ応援したいと思います。(了)



多賀大使と上野さん

関西日本ラトビア協会会員一覧(敬称略 50音順)平成25年4月現在

- |             |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 青柳千代廣       | 今城孝司  | 尾崎由佳  | 木村宗光  | 莊 雅弘  | 鳥尾二郎  | 野井一正  | 古海賢二  | 山口利幸  |
| 明石恭治        | 岩崎和子  | 尾上輝美  | 糸 悦子  | 末田恵得  | 中垣喬子  | 野口末廣  | 風呂本武敏 | 山田助太郎 |
| 浅野敏行        | 岩崎信一郎 | 海堀芳樹  | 小石原 昭 | 杉村秀夫  | 中島文子  | 灰田昌美  | 堀田健二  | 山田弘光  |
| 朝本福德        | 上北耕司  | 加賀昌一  | 小原英明  | 住江六郎  | 長瀬博享  | 蓮池 寛  | 本多敬一  | 山原一晃  |
| 芦田雅行        | 植田多江子 | 垣田英策  | 木挽 司  | 竹村 肇  | 長塚 徹  | 濱田賢時  | 益田信行  | 山本敬子  |
| 安達和彦        | 上野慶三  | 小山千絵子 | 小山泰三  | 橋 英三郎 | 中西雄生  | 濱田諭稔  | 松下桂三  | 山本 靖  |
| 阿部雅子        | 上野龍平  | 勝間俊彦  | 小山昌身  | 立花 修  | 中橋美德  | 濱田諭奈  | 松本 宏  | 山本理恵  |
| 天江喜七郎       | 植村義昭  | 加藤啓子  | 紺谷達也  | 立岡 弘  | 中村きさ子 | 早川明弘  | 三木保人  | 湯上敬明  |
| 荒木美眞        | 大國利雄  | 加藤隆一  | 権藤眞禎  | 田中立子  | 長村文夫  | 東田正己  | 水谷隆之  | 横山晴貴  |
| 荒牧英樹        | 太田敏正  | 金井雅孝  | 酒見信義  | 谷 義一  | 中村雅夫  | 樋口武男  | 溝口明子  | 横山浩明  |
| 有友美智男       | 大槻恭正  | 家門 正  | 雑古晴弘  | 谷村千恵  | 中山三喜子 | 平井敬明  | 宮岡徳博  | 吉村義治  |
| アリナ・アシェチュポワ | 大野美保子 | 河合令子  | 笹井幹男  | 谷本瑞絵  | 中山裕介  | 平越國和  | 村三宅康彦 | 吉村セイ子 |
| 池田裕子        | 大橋正孝  | 河崎圭亮  | 佐々木 実 | 田野吉一  | 夏目 剛  | 廣井勝也  | 村上健治  | 脇山廣三  |
| 石原美生子       | 大原玲美  | 来田登喜子 | 佐々美汎  | 鶴田宜江  | 成瀬康夫  | 藤田千賀子 | 本島昭男  | 和田 弘  |
| 石橋民生        | 江間範夫  | 衣笠武彦  | 佐竹竜俊  | 寺岡志郎  | 西内紘道  | 藤田凱三  | 森川彩子  | 渡辺範子  |
| 市村浩一郎       | 岡 美文  | 木下大洋  | 茂森邦嘉  | 東郷 武  | 西尾 武  | 藤本昌男  | 森田俊作  |       |
| 伊藤茂男        | 岡田安路  | 木下武幸  | 清水 格  | 東郷久野  | 西村達志  | 藤山かよ  | 森脇洋子  |       |
| 稲垣研三        | 岡林昌弘  | 木下智恵  | 下地彰夫  | 轟木裕子  | 西村 優  | 藤原和之  | 八尾和美  |       |
|             | 岡本 健  | 木村咲子  | 正司泰一郎 | 富永章之  | 根津耕一郎 | 古田晴彦  | 安田 勝  |       |

【編集後記】2012年12月に開催された関西日本ラトビア協会の第4回総会には初参加の会員の方がおられ、「大変楽しい会ですね。ラトビアという国をとても身近に感じました」といううれしい感想をいただきました。今後も日本とラトビアの友好の一助となる協会活動を目指していきたいと思っております。引き続きご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

2012年度以降に、新たに協会にご入会いただいた方は、鶴田宜江様、伊藤茂男様、石橋民生様、宮岡徳博様、西村優様、雑古晴弘様の6名です。この場をお借りしまして改めて厚くお礼を申し上げます。また、会員の田中健造様と日比富美子様が逝去されました。田中様は協会理事として、日比様はラトビアトークサロンの中心メンバーとしてご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(事務局金井)